

宝塚市における学校図書館の現状について

宝塚市教育委員会 学校教育課

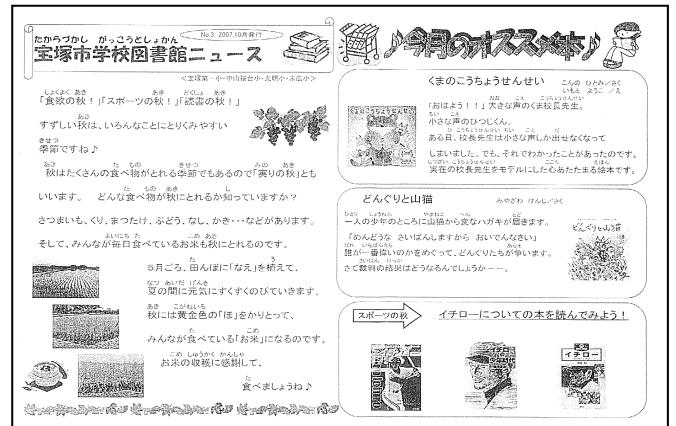
1、学校図書館司書の現状について

① 学校図書館支援センター推進事業

平成18年(2006年)2月～平成21年(2009年)3月は、国の委託事業である学校図書館支援センター推進事業で、市立小学校4校(宝塚第一小・光明小・中山桜台小・末広小)、中学校1校(南ひばりガ丘中学校)に週2日学校図書館司書(協力員)を、市立教育総合センターにチーフ司書(支援員)を配置し学校図書館の充実について調査研究を行った。

<取り組みの成果について>

- 協力員(司書)が配置されることによって、今までの学校図書館教育担当の業務である図書室の整理・整頓・美化・廃棄作業等が標準的に行えるようになったり、学校図書館教育担当への支援となったりしている。
- 協力員(司書)の配置により、人のいる図書室が実現し、1日の利用人数、1日の貸出冊数などが着実に伸びた。また、児童生徒が図書室に集まるようになった。
- 支援員(チーフ司書)は、話題の本の情報提供や図書室レイアウトのアドバイス、ブックメールのフォロー等、各学校における物理的、メンタル的な面での支援をする役割である。各協力校を巡回訪問し支援するとともに、現場の課題を吸い上げ、協力校5校の学校図書館を標準化することができた。



② 学校図書館教育推進事業

平成21年度(2009年度)は、国の緊急雇用就業機会創出事業において、市立小学校4校(良元小・長尾台小・五月台小・すみれガ丘小)、中学校7校(宝塚第一中・宝塚中・西谷中・高司中・南ひばりガ丘中・安倉中学校・御殿山中)に週2日学校図書館司書を配置した。

平成22年度(2010年度)は、市立全小中学校に学校図書館司書を一日4時間、週2日、年60日間配置した。平成23年度(2011年度)は、全小学校の学校図書館司書を業務委託、全中学校の学校図書館司書を直接雇用し、学校図書館の活性化に努めた。

平成25年(2013年)からは、全小中学校の学校図書館司書を直接雇用し、児童生徒の読書活動の推進と図書ボランティアとの連携を行う。

<取り組みの成果について>

- 司書教諭や図書館教育担当者が行っていた図書室の整理・整頓・美化・廃棄作業等を司書が定期的に行うので、図書館環境がきちんと整備され、子どもにとってより魅力ある学校図書館に変わってきている。また、図書室に専門の人がいることから子どもが気軽に学校図書館を訪れ、本の貸出・返却を行ったり、本のアドバイスを受けたりする等、子どもの読書活動が広がりつつある。特に中学校においては、生徒指導上の問題から学校図書館の開館時間を限っていた学校も、司書配置により開館時間を増やし、利用の推進に繋げている。さらに、司書が学校図書館利用のオリエンテーリングや読み聞かせ、ブックトーク等を行うことにより、子どもの読書への興味関心が向上した。(別紙：中学校図書館資料参照)

2、小中学校における一人あたりの年間貸出冊数の比較

① 市立小学校における児童一人当たりの年間貸出冊数の推移

	H18(2007)	H19(2008)	H20(2009)	H21(2010)	H22(2011)	H23(2012)	H24(2013)
一人当たりの年間貸出冊数	32.4	33.9	36.0	34.8	36.2	38.2	41.9
前年度比較増減		+1.5	+2.1	-1.2	+1.4	+2.0	+3.7
司書配置校数	配置なし	4校配置	4校配置	4校配置	24校配置	24校配置	24校配置

- ・ 小学校においては、学校図書館司書が配置されてから一人あたりの年間貸出冊数が増加しており、配置前と比べると一人あたり9.5冊も増加している。特に平成22年度に全校配置して以来、全体的に増加傾向である。平成21年度は、新型インフルエンザにより学校図書館を閉館する等の対応があったため、減少している。

② 市立中学校における生徒一人当たりの年間貸出冊数の推移

	H18(2007)	H19(2008)	H20(2009)	H21(2010)	H22(2011)	H23(2012)	H24(2013)
一人当たりの年間貸出冊数	2.7	2.5	2.8	1.7	2.1	3.3	3.8
前年度比較増減		-0.2	0.3	-1.1	0.4	+1.2	+0.5
司書配置校数	配置なし	1校配置	1校配置	7校配置	12校配置	12校配置	12校配置

- ・ 中学校においては、学校図書館司書が配置されてから一人あたりの年間貸出冊数が増加しており、配置前と比べると一人あたり1.1冊増加している。特に平成22年度に全校配置して以来、全体的に増加傾向である。平成21年度は、新型インフルエンザにより学校図書館を閉館したため、減少している。平成23年度に学校図書館司書を直接雇用し、効果が上がっている。

3、学校図書館司書配置効果

6月に司書が配置されて、まず行った業務は新規図書の登録や生徒のバーコード作成等の電算業務と学校図書館の環境整備であった。学校図書館の環境整備については、子どもにとって魅力的な学校図書館になるよう新規図書の紹介や季節のコーナーの設置、書架の並べ替え等である。新規図書や課題図書については、子どもの興味をひくために、書籍とともにあらすじや感想等を掲示したり、学校図書館の外に新書の入荷予定を掲示したり、学校図書館便りを発行・配布するなど、積極的な情報発信を行い、来館者数の増加に取り組んだ。また、子どもが学校図書館を訪れた際、校内で人気のある本や映画やドラマ等で取り上げられている本等、一人ひとりにあった本の紹介（リファレンス業務）に取り組んだ。さらに、学校図書館司書が読み聞かせやブックトーク、アニメーション等を実施している。

また、図書ボランティアや図書委員会との連携も行っている。図書ボランティアとは、ボランティアの会議に出席したり、ボランティアと連携して配架やコーナー設置、図書の修理、ブッカーかけ等を行ったりしている。図書委員会との連携にも積極的に取り組んでいる。図書委員会に出席したり、生徒とともに季節のコーナーの設置したり、お勧め本の紹介を行うなど、子どもの主体的な活動の支援も行っている。

このような取り組みと学校図書館担当教諭の声かけ・指導によって、学校図書館の来館者数が増加している。

学校図書館司書は、子どものカウンセリング業務も行っている。別室で授業を受けている子どもが

本のリファレンスを受けたり、司書を慕って話をしに来たりする等、本を通して子どもと心から繋がることで、学校図書館が子どもたちの居場所になっている。今後とも司書と教員、図書ボランティア、子どもとが繋がり、学校図書館が「読書センター」「学習情報センター」であるとともに「心の居場所」となるよう取り組んでいく必要がある。



七夕の掲示



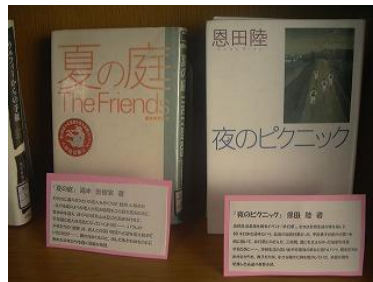
夏休み旅行の勧め



夏の怖い本特集



生徒へ渡す葉



新书推荐



課題図書及び紹介



司書お勧めの本及び紹介



学校図書館教育担当教諭と司書、図書委員会が協力連携した夏のお勧め本コーナー。生徒が選書して司書が掲示した。

5、図書ボランティアとの連携について

市立小中学校 36 校中 32 校に図書ボランティアが組織されている。毎年、総勢 500 名以上にのぼる。図書ボランティアの活動としては、図書の貸出返却等の窓口業務をはじめ、本の紹介、本の整理整頓、本の修理修復、学校図書館の掲示活動、お話し会など多種多様に及んでいる。これらの活動を通して、人の温もりのある学校図書館としての環境づくりや本を通したコミュニケーションが図られ、子どもたちにとって魅力ある学校図書館になっている。

市教育委員会としては、TAKARAっ子いきいきスクール推進事業やたからづか学校応援団事業で図書ボランティアの活動を支援している。学校図書館司書と図書ボランティアとが連携して、学校図書館のさらなる充実と子どもの読書活動の推進を進める必要がある。

(過去の図書ボランティア交流会の年間報告)

	日 時	参加人数	内 容 (概 要)	場 所
1	5 月	38 名	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の活動報告と今年度の活動内容について報告 ・各学校の取組状況の意見交流 ・西図書館の司書である花村久代さんを講師として招き「楽しい学校図書館」をテーマとして講演会を実施 	市役所
2	6 月	45 名	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活文化研究家の梓加依さんを講師として招き、絵本の読み語り講座～基礎編～を実施 	市役所
3	7 月	40 名	<ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館の司書である藤野高司さんを講師として招き、書架の配置や NDC 等について学習会を実施 ・中央図書館の書庫の見学 	中央図書館
4	9 月	49 名	<ul style="list-style-type: none"> ・小林聖心女子学院中学校・高等学校学習センターに司書教諭として長年にわたり勤務している飯田寿美さんを講師として招き「学校図書館の仕事」をテーマとして講演会を実施 	市役所
5	10 月	55 名	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活文化研究家の梓加依さんを講師として招き、絵本の読み語り講座～基礎と実践編～を実施 	市役所
6	11 月	64 名	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなしキャンドルを主宰されている田中千代野さんを講師として招き、絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングの実践講座を実施 	市役所
7	12 月	33 名	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活文化研究家の梓加依さんを講師として招き、絵本の読み語り講座～実践編～を実施 	市役所
特別	12 月	40 名	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなしキャンドルを主宰されている田中千代野さんを講師として招き、絵本お読み聞かせライブを実施 	パネル 可成店
8	1 月	28 名	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活文化研究家の梓加依さんを講師として招き、絵本の読み語り講座～実践編～を実施 	中央図書館
9	2 月	30 名	<ul style="list-style-type: none"> ・美座小学校の学校図書館司書に学校図書館の紹介と魅力ある学校図書館作りについての講話 	美座小学校

6、宝塚市ネットワーク型学校図書館システム

平成 14 年度（2002 年度）に、宝塚市立教育総合センターにおかれた学校図書用サーバに市立全小中特別支援学校の蔵書・児童生徒のデータを保存し、各学校に置かれている端末コンピュータからイントラネットを使ってデータを呼び出し運用するシステムを構築した。平成 22 年度（2010 年度）8 月にシステム更新を行った。

◎ システム導入におけるメリット

- ・ 各学校の図書の貸出返却業務を、バーコードリーダーを通すだけで管理できるため、誰でも簡単に図書館窓口業務ができるため、子どもの自主性も育てることができる。
- ・ 自分が読みたい本の貸出状況や蔵書数の確認することができる。また、他の学校の情報も横断的に検索できるため、学校間相互貸出も可能である。
- ・ 児童生徒の読書量及び読書傾向が把握できるため、読書量にあわせて表彰したり、人気の本を子どもに知らせたりする活動ができる。
- ・ 全学校の全ての図書館データ（蔵書情報・個人貸出情報・読書傾向等）をバーコードラベルとバーコードリーダーの使用により容易に管理できる。
- ・ 蔵書管理・蔵書点検、貸し出し冊数等の統計データを容易に取り出せる。
- ・ 授業で同じ本を使いたい場合、他校の蔵書状況を検索することにより、市内で何冊あるのか確認できる。
- ・ 返却を遅延している子どもや本の所在が容易に把握できるため、本の管理が煩雑にならない。

7、手塚治虫コーナーの設置

昨年、7 月に全小中学校に手塚治虫の書籍を 3 冊ずつ配布し、司書教諭や図書ボランティア、学校図書館司書が中心となって手塚治虫コーナーを設置した。本コーナーは、ふるさと宝塚市にふかりのある手塚治虫氏の作品を子ども達が触れることにより、ふるさと宝塚を愛し誇りに思う心を育成することをねらいとして設置された。

今後もコーナーを継続して、ふるさと宝塚市を愛することもたちを育成していきたい。

